

# 麻疹に注意!

4月28日に茨城県から、5月12日に東京都から、麻疹(はしか)患者の発生について報道発表がありました。疫学調査により、東京都の患者は茨城県の患者との接触歴(同じ公共交通機関を利用)が確認されました。

## 麻疹について

- 潜伏期間は、約10~12日間とされています。
- 麻疹は症状が出現する前日から感染力があり、カタル期(前駆期ともよばれ、発熱、倦怠感、上気道炎症状、結膜炎症状が現れる時期)が最も感染力が強いと言われています。
- とても感染力の高い疾患(1人から12人~14人に感染させる力があります)で、空気感染します。
- 治療は対症療法のみで、合併症として肺炎と脳炎に注意が必要です。

## 麻疹はワクチンで予防できる疾患です

- 予防にはワクチン接種が有効です。
- 50歳未満で、検査診断された麻疹の罹患歴がない人は、至急対応が必要です。麻疹に罹ったことがない人で、  
【就学前の小児】
  - ・1歳になったらすぐに第1期の麻疹風疹混合ワクチンを受けること。
  - ・幼稚園の年長組、保育所の5歳児クラス(2017年4月2日~2018年4月1日生まれ)は第2期の麻疹風疹混合ワクチンを受けること。  
【小学生以上50歳未満の方】
  - ・麻疹含有ワクチンの接種記録が1歳以上で2回有るかどうかを確認すること。平成20年度から24年度に中学高校生だった方(1990年4月2日~2000年4月1日生まれ)は第3期・第4期の対象でしたが、神奈川県は全国のなかで接種率が低かったことが分かっています。接種を受けたか保護者に確認してみてください。

※ 記憶(きおく)はあてになりませんので、記録(きろく)がない場合は、受けていないと考えましょう。ひらがな一文字大違いです。もし、2回の接種記録がなかった場合、特に1回も受けていない人は、今すぐかかりつけの医療機関に相談しましょう。任意接種になりますが、麻疹風疹混合ワクチンの接種は可能です。

### 【50歳以上の方】

- ・罹ったことがある人がほとんどだと思いますので、抗体検査で確認してみるのも一案です。(自費になります。)
  - 【昭和37年度から昭和53年度生まれの男性で風しんの追加的対策(第5期)のワクチン接種をされた方】(神奈川県の抗体検査受検者は約25%)
    - ・使用したワクチンがMRワクチン(麻疹風疹混合ワクチン)であったかをご確認ください。風疹ワクチンだった場合は、麻疹の免疫はついていません。
- (50歳未満の方でも、麻疹に罹ったと思い込んでいる人は、一度、抗体検査で確認してみるのも一案です。)

# 日本のワクチン接種率が低下しているため、国内流行が危惧されます

○COVID-19流行前と比較し、麻疹含有ワクチン接種率・麻疹抗体保有率がともに低下していることが分かっています。

麻疹含有ワクチン接種率;麻疹予防接種情報(国立感染症研究所ホームページ)より  
2021年度

	第1期	第2期
全国	93.5%	93.8%
神奈川県	93.9%	93.0%

2018年度

	第1期	第2期
全国	98.5%	94.6%
神奈川県	99.5%	94.9%

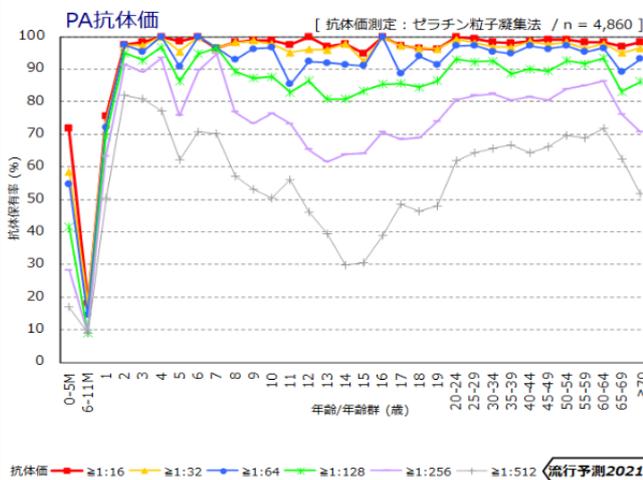
※麻疹排除のため、2回の予防接種率をそれぞれ95%以上にすることが望まれます。

麻疹抗体保有率;感染症流行予測調査グラフ(国立感染症研究所ホームページ)より

年齢/年齢群別の麻疹抗体保有状況, 2021年<sup>※1</sup>

～2021年度感染症流行予測調査より～

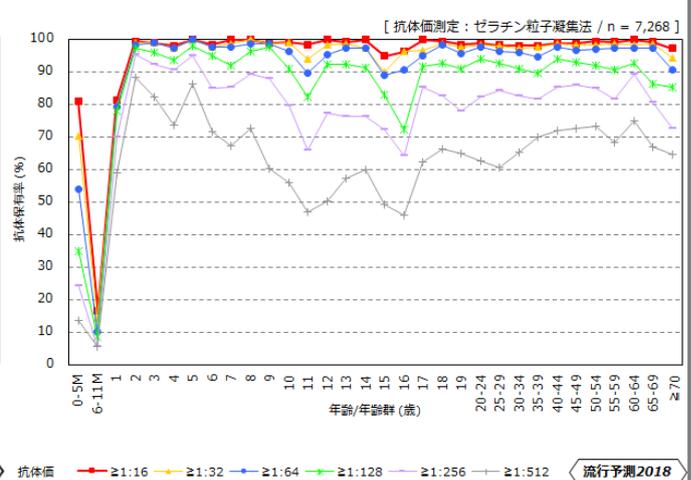
※1 主に2021年7～9月に採取された血清の測定結果: 2022年4月現在暫定値



年齢/年齢群別の麻疹抗体保有状況, 2018年<sup>※1</sup>

～2018年度感染症流行予測調査より～

※1 主に2018年7～9月に採取された血清の測定結果: 2019年5月現在暫定値



※発症を予防するのに十分な抗体価は1:128以上と言われています。(グラフでは、黄緑、薄紫、グレー。)

※2018年と比較し、2021年では1:128以上の折れ線グラフの抗体保有率(%)が全体に下がっています。

このことから、抗体保有率が低下していると考えられます。

○海外でも麻疹が増加しています。海外との往来が盛んになってきているので、次々持ち込まれることが予想されます。

## 医療機関の方へ

突然、麻疹患者さんが外来を受診する可能性がありますので、

○外来患者さんで、発熱、カタル症状がある方は、麻疹含有ワクチンの接種歴をご確認ください。

○海外渡航歴もご確認ください。

○外来患者さんで、発疹、発熱、カタル症状がある方は、必ず麻疹を疑って、

**最寄りの保健所に臨床診断例として直ちに届出てください。**

○地方衛生研究所で遺伝子検査を行いますので、「咽頭拭い液(ウイルス輸送用)」「血液(EDTA-2NaあるいはEDTA-2K、ヘパリンは不可)」「尿」の3点セットをご用意ください。採取の適正期間は発疹出現後7日以内です。IgM抗体の結果が出てからの採取ですと、陰性となることがあります。

